




学 位 論 文 審 査 の 要 旨

| | |
|---|---|
| 論文提出者 | 落 合 慶 信 |
| 論文審査委員 | (主 査) 朝日大学歯学部教授 田 村 康 夫  (副 査) 朝日大学歯学部教授 江 尻 貞 一  (副 査) 朝日大学歯学部教授 碓 哲 崇  |
| 論文題目 | |
| 乳児口蓋形態を考慮した人工乳首の機能的特徴 | |
| 論文審査の要旨 | |
| <p>本論文は、乳児の口蓋形態を三次元的に観察することにより新たな人工乳首（口蓋適合型乳首）を考案・製作し、吸啜時における口蓋適合型乳首と母乳および他の人工乳首との口腔周囲筋の筋電図学的特徴を明らかにすることと、さらに口蓋適合型乳首を実際に適用した場合の機能的特徴を明らかにすることを目的としたものである。</p> <p>まず非接触型三次元計測装置を用い、無歯期上顎模型から乳児の口蓋形態の特徴を観察し、その形態から口蓋適合型乳首を考案・作製している。そして、新型乳首の機能的評価を行うために、口蓋適合型乳首群、母乳群、丸型乳首群、有弁型乳首群の4群間で、吸啜運動時の口腔周囲筋（片側の側頭筋、咬筋、口輪筋および舌骨上筋群）における筋活動について比較検討し、また機能的評価として、人工乳あるいは混合乳哺育を行っている母子ペアをモニターとして家庭で口蓋適合型乳首を使用してもらい、それまでの人工乳首と比較した場合の乳首への慣れ、飲みやすさ、吸啜リズム、飲みこぼし、飲む量、げっぷの頻度の6項目について臨床的評価を行っている。その他、方法の詳細は、論文内容要旨の通りである。</p> <p>その結果、1吸啜時における筋活動量は、咬筋では口蓋適合型乳首群や母乳群が丸型乳首群と比較して有意に大きく、また舌骨上筋群においても、口蓋適合型乳首群は丸型乳首群および有弁型乳首群と比較し有意に大きい活動を示していた。総筋活動量も、口蓋適合型乳首群は丸型乳首群に比べて有意に大きい活動を示していたという。これらのことから乳児にとって口蓋適合型乳首は口腔周囲筋を活発に働かせて吸飲していることを明らかにしている。</p> <p>実際使用しての機能的評価では、すべての項目において口蓋適合乳首はこれまで使用していた人工乳首に比べ機能的に良好な変化を示していた。特に慣れへの早さ、飲みやすさ、リズム、飲みこぼしについては評価が高かった。</p> <p>以上の結果から、口蓋適合型乳首は、他の人工乳首と比較して乳房哺乳に近い口腔周囲筋の活動を促すことができるという結論を得ている。</p> <p>審査委員は、本論文が新しい発想で口蓋適応型乳首を作製し、その吸啜時の筋電図学的また臨床機能的特徴を明らかにし、口蓋適応型乳首は他の人工乳首と比較して乳房哺乳に近い口腔周囲筋の活動を促すことができるという結論を得ていることを評価するものであり、学位（歯学）授与に値するものと判定した。</p> | |